

## 学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第四中学校

| 柱         | No | 評価項目                                                            | 自己評価 | 自己評価の説明及び学校の考え                                                                                         | 関係者評価 | 学校関係者評価者の説明                                                                                          |
|-----------|----|-----------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校の組織運営   | 1  | 学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。                              | B    | ・全教職員が目指す学校像に向けて教職員それぞれの経験と能力、個性を生かし、生徒の様子や学習状況に成果を表す一方で課題意識をもって改善に取り組むことができた。<br>・学習指導を重点に組織的な改善に努める。 | A     | ・教員の自己評価が高く、組織的な教育活動が行われている。<br>・学年、学級の運営に課題意識も高くもち、細かな箇所も含めて改善点が示されている。<br>・課題については次年度焦点化し取り組めるとよい。 |
|           | 2  | 学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。<br>(※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む) | B    | ・早期発見、早期対応に努め、組織的な相談体制と外部機関との連携が確立できている。<br>・定期的な安全点検や危険箇所の把握と計画的な修繕の実施により、事故を未然に防ぐ体制ができている。           | B     | ・教職員の自己評価が厳しいため日頃から安全への配慮がされていることがわかる。<br>・日頃から「安全に絶対はない」と意識し、防災も含めた具体的な安全教育が必要である。                  |
| 基礎学力の定着   | 3  | 児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。                                   | B    | ・基礎基本の確実な定着と学ぶ意欲を高める工夫が実践できた。<br>・学習指導要領に基づいた指導について教科内で十分に解釈、共有し、引き続き指導方法の改善に努める。                      | B     | ・教員と保護者で学力のとらえ方に差がある。<br>・学力格差を課題とし、学力低位の生徒の基礎学力向上が課題である。どのように改善を進めていくか具体的な取組と積み上げが必要。               |
|           | 4  | 学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。                            | B    | ・埼玉県学力・学習状況調査など諸調査の分析に基づいて生徒の実態に応じた学力向上プランを策定し、生徒を引き付ける授業づくりを目指し、成果を得ることができた。                          | B     | ・生徒、保護者、教員とも評価が高い。<br>・生徒や職員の評価から生徒の興味関心を高める工夫と学力の定着を図るための見届けが行われている。                                |
| 規律ある態度の育成 | 5  | 児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。                      | B    | ・「学校のきまり」を削減の方向で生徒の意見も取り入れながら見直した。<br>・今年度の成果は小さいが、生徒が中心となった取組を引き続き行うことによって規範意識を高めていく。                 | A     | ・「生活の決まり検討委員会」で生徒の意見を反映した取り組みがなされ、「規律」を内在した深い学びとなっている。                                               |
|           | 6  | 学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。                        | B    | ・生徒主体の活動を通して生徒の判断を尊重した規律ある態度の指導が実践できた。<br>・生徒自身が試行錯誤しながら判断、実践できる指導について研修を深めていく。                        | A     | ・生徒自身に判断を任せることによって、自らを振り返り、実践力を身に付け、教員が見届ける取組が必要。                                                    |
| 健康・体力向上   | 7  | 児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。                          | A    | ・保健体育授業では、考える機会を大切にしながら授業を展開し、意欲的に運動に取り組ませることができた。<br>・新型コロナの時期との比較となるが、大幅な体力向上が見られた。                  | A     | ・保護者、教員とも評価が高く、楽しく元気に学校生活を送っている。<br>・部活動にしっかりと取り組んでいる。                                               |
|           | 8  | 学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。                                | B    | ・保健体育の指導方法を随時見直し、更新しながら生徒自ら考え、実践させる指導を行った。<br>・体力向上の成果を分析し、指導力向上に生かす。                                  | A     | ・体力向上の成果が高く評価できる。<br>・成果を分析し、意図的、計画的に体力向上を目指してほしい。                                                   |
| 連携        | 9  | 学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。                           | B    | ・学校だよりや保護者案内をtatoru配信に変更したところ、保護者が目を通す機会が増え、情報の共有性が高まった。<br>・ふれあいまつりは4200名以上の来場があり、ふれあいまつり再開後の記録を更新した。 | A     | ・四中校区ふれあいまつりの動員力、内容とも規模が大きく、学校が地域の中心である意識を子供たちも持っている。                                                |
|           | 10 | 保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。                         | B    | ・校外パトロールは、保護者、地域の協力を得てルートを毎回見直し実施した。あいさつ運動、通学路安全点検を予定通り行い、情報収集に努めた。                                    | A     | ・保護者、地域が協力できる場があれば協力していきたい。                                                                          |

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満